



2022年8月、今年も日本・フランス現代美術世界展の夏が来る！

皆さまのご協賛により、今年も「第23回 日本・フランス現代美術世界展 2022」の開催が決定いたしました。

近年、本展には国内はもとより海外からの関心も高まっており、JIAS協会活動に心を寄せる海外作家からは、多くの力強いメッセージが寄せられました。

“～コロナのその先に～ 未来に向けた創作コンセプト” 芸術の力を信ずるアーティスト達の未来に向けた言葉の数々です。

マドレーヌ ブルノー

ル・サロン会長

肉体や顔にとって、まったく特別で魅力的で、かなり古典的なアプローチ。
人間とは、とりわけ独創的でもないが、唯一無二のテーマである。彫刻とはむき出しで、切迫した痕跡が見えて、量感と線が光を捉え、断固たる特徴を持つものである。



ドゥラルフ マルティヌ

ル・サロン名誉会長、画家

コロナ禍は我々に深い内省をもたらし、本質的な問いが浮かび上がった。それは繊細で鋭敏で、力強く明快なビジョンに昇華する。それがアーティストの生命であり、いつの時代においても、アートこそ人類の夢である。



セヴェラック カトリーヌ サロン・ドトーヌ絵画部門長

荒々しい時代。アーティストには2つの可能性がある。この荒々しさを表現するか、または、アトリエの孤独の中で静けさと沈黙を見つけようと試みるか。後者の選択は私に、静かな生活の美しさを味わい、謙虚さをもって日々を浄化しようと試みることを求める。



シルヴィ・ケ克蘭

サロン・ドトーヌ前会長 彫刻家

2020年、人類は目には見えない小さな生命要素が、世界のバランスを脅かす力を持っていることを発見した。
今日、アートの使命は、地球上の生命の儂い美しさが、これまで以上に貴重であることを人々に示すことである。



ベルジェ ダニエル

JIAS 関係作家

アートは現実からの逃避ではないが、繊細な豊かさを映し、活用し、他者と喜びを分かち合う最良の手段である。
我々がこの世界の脆さを知りたいま、これほど貴重なものはない。



ダバンクール エリック

サロン・ドトーヌ作家

この情勢において私たちは今までにないほど孤独である。アーティストは一人でありながら複数の役割を担っている。作り、広め、展示し、そして創作を保護する。
明日のアートが、儀礼なく誰でも手が届く存在であり、最高のものであることを願っている。



ブルジュノ ソフィー サロン・ドトーヌデッサン部門長

アーティストは、人間の無意識の深さと生命の神秘との関係を表現することで、時間の支配を逃れ、物事の本質を示す。
それが、数々の危機を迎えようとも芸術が存在し続ける理由である。



プリヴェ ジャン-ポール

サロン・ドトーヌ作家

人間はかつてないほど、精神的次元での結びつきを必要としているのではないだろうか。その意味においては、アーティストは先駆者である。私の絵画作品は、陰から光へと向かう長い道のりの聖なる探求であり、これからもそうであり続けるだろう。





ジャン・マリ・ザッキ

日本・フランス現代美術世界展仏側運営委員長、 JIAS名誉顧問、 JIAS名誉副会長、ル・サロン名誉会長

私の作品を見た人々が、一瞬でも自由、解放、安らぎを感じ、幸せを感じられることが私の喜びです。また、私自身の描く喜び、創造する幸せを感じてもらえたら嬉しい。私にとってアートとは万人がアクセスできる普遍的な言語なのです。

JIAS が主催する日本・フランス現代美術世界展は、会場や様々なジャンルの拡充、テクノロジーを駆使したオープニングイベントなど、その歩みは止まることを知りません。このことは仏サロン界にも気づきと影響をもたらしたと確信しております。

年を追うごとの JIAS の発展、伝統と進化、まさに二つの融合が垣間見える本展の質の向上とその創造性に、心より敬意を表します。

エルベ ロワリエ JIAS 名誉顧問、サロン・ビオレ名誉会長

芸術家も芸術愛好家も苦しんでいる今日、苦悩する人々に安らぎを与えるアート本来の役割がより鮮明になっている。



スナイデル サロン・ドトーヌ副会長兼 写真部門長

アートには国境も壁もない。
毎日、毎瞬、生まれ変わる。
アートには国境がない。扉は開かれ、我々を結ぶ。アートは自由である。
そして生命である。



カンドル ルカ サロン・ドトーヌ作家

もしもコロナが私たちの日常に疑問を投げかけるために存在したのだとしたら？私は自分に忠実であり続ける。美しさと精神性を重視する。アートは一種の「白昼夢」で、すべての外部作用から独立されるべきである。そして夢が現実となった時、人は壮大な花のように、人生を魅了する美しさと芳香の中で開花する。



カスナー デヴィッド JIAS アメリカ代表

Ki Kan (帰還)は英語で「帰宅」を意味する。宇宙船はやぶさは人類の思考と技術の頂点を表している。Ki Kan (帰還)は人間が原点に戻ることを意味し、それはまた、未来に対する楽観的な視点であり、人間の思考の真髄を証明するものである。日本の皆さまが健やかで幸せに過ごせることを祈っている。



モレル フィリップ サロン・ドトーヌ作家

音楽のように、抽象絵画は色彩の調和やコンポジション、グラフィックのリズムによる精神逃避を可能とする。
人は抽象芸術に、感情や感性を自由なままにする可能性を見出す。



ルコワン ドゥアラ ロカテユ フローランス サロン・ドトーヌ作家

アーティストの感性は様々な出来事に影響を受けるが、アートは社会の幸福において必要であり続けるだろう。なぜなら、アートはそれぞれが美的価値を持ち、嗜好や文化により認められていくものだから。
アートは人間のもつ自由な力を証明する。
アートは万国共通である。



バイ グアン 中国出品作家

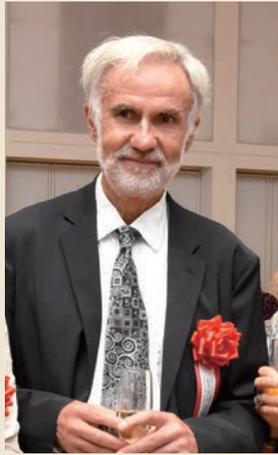
アートは未来志向である。
生まれた瞬間から、アートと呼ばれた瞬間から、それは一貫して人生を創り出してきた。
アートに添えられた真の力とは、往々にして、偉大な感情や感激が融合したものである。



アサエル サロン・ドトーヌ作家

アートは私にとって夢、ビジョン、そして感情である。アーティストは孤独を好み、それは環境に左右されることはない。変化したのはアーティストの視界、出会いや共有である。我々は今日、新しい対話法を用いるべきである。
アートは贅沢品ではなく、幸せを生み、共有するために不可欠なものである。





ルグラン ドゥニ

サロン・ドトーヌ会長、建築家、画家

他国への移動が制限され、フランス国内でも展覧会の開催ができなかった困難な時期を経て、今日、私たちは次なる日常を想像しています。

アーティストらが待ち望む、夏の東京・日本フランス現代美術世界展、秋のバリでのサロン・ドトーヌ。

双方の国際的アート・イベントの成功に向け、我々は全力で準備に力をそそぎます。

近い未来、日本で、または秋のバリで皆さまに再会できることを心から願っています。

ロネル クリストフ

JIAS 関係作家

創造とは、ここと向こうをつなぎ、過去と現在をつなぐ特別なアプローチである。混淆、攪拌、交差、逆説的並列や反証的連帯なしには創造できない。多様性のつぼにおける創造こそ、世界平等という観念を映し出すことができる。



アルヴェス シダリア

サロン・ドトーヌ作家

アートは飛翔する鳥のごとく大きな羽を広げた蝶のようだ。1年間の閉ざされた期間を経て、息をひそめ目を閉じていた蛹は、完全変態の瞬間を迎える。私たちは青虫から蝶へと、美と自由のステージへと向かうだろう…そして飛び立つ…



ドル ジュヌヴィエーヴ

サロン・ドトーヌ作家

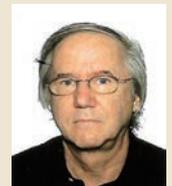
アートとは常に人間と切り離せない不可欠なものだ。我々を立ち戻らせたり、話し合い勇気づけたり、癒したり、理解を深めたり、時に軋轢さえ生む。このかつてない困難の後、気ままな私の作品が、固まったイメージと見なされる絵画の矛盾を解消し、アートは生き物であり、流動的であり、生きていて、感情を循環させるものであるよう願っている。



ダンネル ミシェル

サロン・ドトーヌ作家 絵画部門長

コロナやウイルスが通り過ぎても、アートはあり続け、それは常に永遠である。



ソワイエ ジャン

JIAS 関係作家 サロン・ビオレ会長

難しい期間。未知なるものを前にした時の不安な気持ち。他者との断絶。それは我々を創造へと強く駆り立てる。明日への不安に侵されることなく、根底にある創造への情熱と真摯さを追求する。生命が死に向かうさだめなら、私たち自身を愛と希望で彩りたい。



ウェベル セリーヌ

サロン・ドトーヌ作家

「絵画は自己発見である。アーティストは自分が何であるかを描く」私のアーティストとしての活動は孤独を断片化し、結束をより強める。キャンバスを通して光をもたらす。かつてないほど本質的なアートを表現する。



ギョーム マール

サロン・ドトーヌ作家

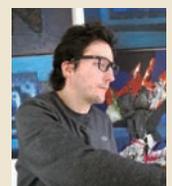
アートの世界には自由の風がふいている。アーティストは順応し、自身を再発見し、生まれ変わるために新しい方法を用いる。創造力は尽きることない資源である。



ドゥファン ギョーム

サロン・ドトーヌ作家

コロナは人々を死に追いやり、離別させ不安にさせたが、アーティストは我々が見たり表現することが難しいものに光をあてる。恐怖を解放し、対話や鑑賞者との交流を確立する。アートは不変の希望であり自由である。アーティストとしての資質を失わない限り、アーティストに変化を強いることはできない。



作家・作品と共に進歩するJIAS関連展“新たな評価軸とフィードバック”

2020年、第21回日本・フランス現代美術世界展より、会場サイズ拡大にともない既成概念にとられない、より幅広いジャンルの作品を応募いただける展覧会として新たに発信、大変好評いただいております。

そして昨年（2021年）の第22回展より、新たな評価軸をもった「賞」選考にて更に歩みを進めます。

「新たな評価軸を、より良い質の進化と創造性の開花に役立てて欲しい」

JIAS 日本国際美術家協会
代表 馬郡文平

2021年8月、私ども JIAS 主催の「第22回日本・フランス現代美術世界展」は盛況のうち無事、幕を閉じました。2020年に引き続きコロナ禍ではありましたが、家族や友人に会う事も儘ならない状況下にも関わらず、連日、多くの来場者が500点を超える作品を観覧くださいました。

来場者はもちろん、出品作家の皆さま、ご協賛いただいた関係者の皆さまに、主催者としてこの場をかり、改めて感謝申し上げます。

また感謝とあわせ、今回展より入賞数が大幅に増えました件につきまして、この場を借り、我々の考えをお伝えいたします。

本展に関わらず私どもは、公募展審査、展覧会賞審査ほか講評など、特にフランス画壇で実績を重ねられているベテラン作家、美術評論家、美術関係者らより評価結果を伺う機会に恵まれております。改めてその内容を吟味すると、特に賞審査において従来（2020年）の賞のみでは、異なる作風やそれぞれ細部にわたる芸術表現を評価しきれていないと感じるに至りました。

そこで、関係者らと十分に協議の上、次のような意図をもって、昨年（2021年）8月開催以降より、様々な芸術表現をジャンルごとに、評価軸を新たに設けることと致しました。そしてその結果を「賞」としてフィードバックさせていただく事により、作家の皆さまには自らの作品がどのように理解されているのかを掴んでいただく。かつ、将来においては、その技能をさらに磨き上げ、もしくは超えて、作品の質の向上と創造性のさらなる開花に役立てて欲しいと思います。また、評価軸は芸術表現幅の変動に伴い、フレキシブルであるべきと考えており、今後、受賞された方で、何をもって評価されたかをより理解されたい方は遠慮なく事務局までお問い合わせいただけたら幸いです。



JIAS 代表 馬郡文平



JIAS 名誉副会長
ジャン・マリ・ザッキ



JIAS 名誉顧問
エルベ ローリエ



JIAS アメリカ代表
カスナー デヴィッド



JIAS 日仏世界展関係者
サルヴァートル・ジョン・A.リオッタ

入賞者・作品ご紹介

第 22 回 日本・フランス現代美術世界展 2021

大 賞



熊谷 睦男 「延年の舞・老女<鎮魂 20> 油彩 100.0 × 80.3

オリジナリティのある構図である。それは、“光と影”、“老い”、“静と動”、“鎮魂”の構成である。一枚の作品に、複雑な構成をシンプルに整え、鎮魂へと昇華している。老いと背景の思い、面をしての舞が、鎮魂へと誘う。静かなれど、とても動的な、観るものにさまざまな思いを抱かせる見事な作品である。

入賞者・作品ご紹介



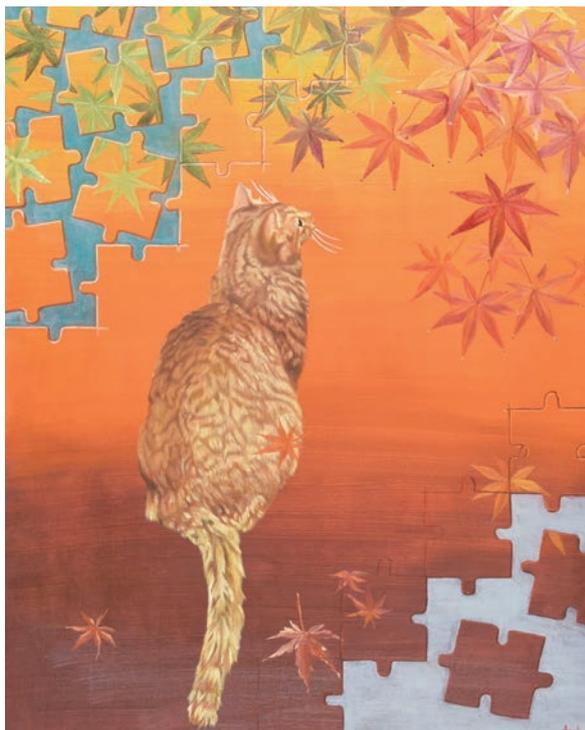
第 22 回 日本・フランス現代美術世界展 2021

日仏賞

渡部 昇 「10pm」
ダンボールにアクリル絵画
103.0 × 72.8

軽い近代的なテクスチャー（ダンボール紙）を活かし、綺麗な町の光がとてもロマンチックに描かれている。作品は、とてもポップな独特の印象を観るものに与える。

都会の街は、正確にデッサンされており、ともすると冷たい表現になりかねない構図をオリジナルの（暗さの中の）明るさで表現している。シーンを構成する光のポジショニング、種別、配置がとてまうまく作品全体の印象を作り上げている。



第 22 回 日本・フランス現代美術世界展 2021

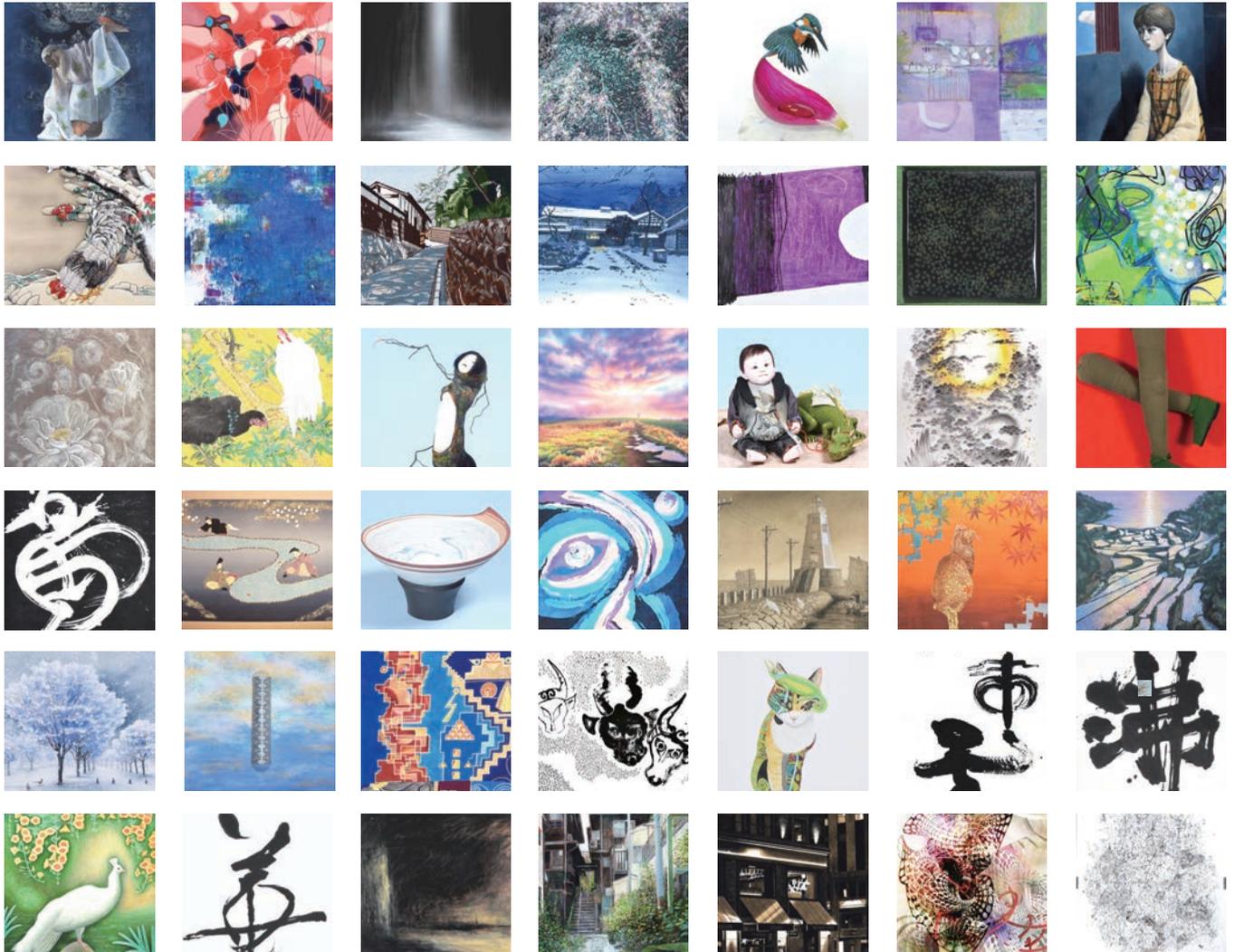
日仏賞

小畑 敦子 「夏から秋」
油彩 90.9 × 72.7

素敵な秋の色合いを、猫という作者の愛するテーマと共に表現している。

色づく秋、それを眺める（たたずむ）猫、猫に降り注ぐ紅葉の葉。作品は、平面の構成とやや奥行のある色合パズルに見立てた構成により、ある瞬間の印象的な秋と猫の時間・空間をみごとに表現できている。猫が秋を眺めているのか、それとも秋の紅葉の季節にいる猫を、絵を観ているものが眺めているのか、作者の思いが印象の残るオリジナルの表現としてうまくまとめられている。

第 22 回日本・フランス現代美術世界展 入賞について



前回展では、新しい評価軸により、入賞41名、その他13名が受賞されました。作家、作品の詳細につきましては公式ホームページ内で紹介しております。ぜひ、ご覧ください。

すべての入賞作家はホームページにて紹介しています <https://www.obijias.co.jp/report/?ca=2>



本年展《第 23 回日本・フランス現代美術世界展世界展 2022 賞の紹介》

大賞	2023年第24回日本・フランス現代美術世界展 壁面一面特別展示出品招待 (壁面横幅最大8.3m/30号平均6点推奨)、作家インタビューをHPに掲載
準大賞	2023年第24回日本・フランス現代美術世界展 1点出品招待
サロン・ドトヌ賞	2023年第24回日本・フランス現代美術世界展 1点出品招待
パリ国際サロン賞	2024年第37回パリ国際サロン 1点出品招待
新エコールドパリ 浮世・絵(NEPU)賞	2023年度NEPU公認作家として同年1年間国内外に広報、インタビューをHPに掲載 2023年第24回日本・フランス現代美術世界展、次年度美術賞展 1点出品招待
エスパス・ブリヴェ	2023年第24回日本・フランス現代美術世界展 1点出品招待
優秀賞	主催者側ホームページ、SNS等で受賞作品を紹介 項目数、内容は年度毎に異なる 前回第22回展は32名(例) 優秀賞/日本画/水彩/版画/染色/立体工芸/壁面工芸/ モノクローム/マチエール/デッサン/ヴァールール/テクニク/モチーフ/アイデア /ウルトラモダン/パフォーマンス/コマーシャルアート/建築・空間デザイン、など
奨励賞・特別賞	主催者側ホームページ、SNS等で受賞作品を紹介
協賛賞	各協賛会社にて選出 マイメリ賞、クサカベ賞、マルマン賞、美術の窓賞

2021年 JIAS 活動報告

2021年度 JIAS は会期変更、会場、開催地の変更など様々な困難に対処しつつ、以下の展覧会を無事に開催・共催しました。各展覧会報告は欧州美術クラブホームページ内や、Facebook 等にてご覧いただけます

「ル・サロン 2021」日本作家 20 人展 ～国際画壇を牽引した 3 人の巨匠たち

会期: 2021年4月5日(月)～10日(土)
会場: 東京・銀座第7ビルギャラリー 1F
協賛: フランス芸術家協会(ル・サロン)

※コロナによる仏国内での開催中止を受け、急遽日本にて特別展を開催



第 34 回パリ国際サロン / ドローイング・版画コンクール部門

会期: 2021年4月22日(木)～25日(日)
会場: パリ市3区 エスパス・コミンヌ



第 22 回日本・フランス現代美術世界展 2021

会期: 2021年8月5日(木)～15日(日)
会場: 東京・国立新美術館3A3B
特別協賛: サロン・ドトーヌ



第 53 回欧美国際公募 スペイン美術賞展 2021

会期: 2021年10月15日(金)～10月31日(日)
会場: スペイン カンタブリア州コミージャス市 エスポロン文化センター、
CIESE コミージャス大学、ソブレジャノ宮殿、
カプリッチョ・デ・ガウディ、オールド・タウンホール



サロン・ドトーヌ 2021 (主催: サロン・ドトーヌ協会)

会期: 2021年10月26日(水)～10月30日(日)
* 26日(水)ベルニサージュ
会場: パリ市 シャンゼリゼ特設会場



2022年 JIAS 活動予定

今後 1 年間の主な活動予定です。展覧会開催時には、SNS やホームページを活用し、リアルな現地情報をお届け致します。どうぞ積極的なご参加をお待ちしております。

ル・サロン 2022 (主催: フランス芸術家協会)

会期: 2022年2月15日(火)～2月20日(日)
* 15日(火)ベルニサージュ
会場: パリ市 グラン・パレ・エフェメール

2023年展 応募締切 2022年4/20(水)



第 35 回パリ国際サロン / ドローイング・版画コンクール部門

会期: 2022年4月14日(木)～17日(日)予定
※会期2月から4月に変更
会場: パリ市3区 エスパス・コミンヌ



TOKYO 世界展 in France 2022

会期: 2022年5月末～6月以降予定
会場: パリ近郊
(ランブイエ市、パリ市内など)予定
協賛: フランス芸術家協会(ル・サロン)



第 23 回日本・フランス現代美術世界展 2022

会期: 2022年8月11日(木)～8月21日(日)
会場: 東京・国立新美術館3A・3B展示室

応募締切 2022年5/9(月)



サロン・ドトーヌ 2022 (主催: サロン・ドトーヌ協会)

会期: 2022年10月予定
会場: パリ市 シャンゼリゼ特設会場

2022年展 応募締切 2022年2/22(火)



2022年度 JIAS 日本国際美術家協会 新会員

1k2an	松田 彩子	桜山 明空
畑 淳子	松岡 たか子	獅子堀 開
井田 ローサ	村上 里紗	高木 巧治
岩瀬 恵美子	長島 紘子	田澤 伯堂
鹿山 日登美	小野 蓮月	山河 宝生
楨本 良平	さかもと 未明	Yoshie

以上 18 名 2022 年 1 月現在

JIAS その他お知らせ

2022年度 JIAS 定時総会は、2022年8月上旬(8月11日～14日頃)を予定 *於:国立新美術館 講堂内等

総会の開催はコロナ等を鑑みながら、状況にあわせ随時お知らせいたします。本年は会員の皆さまにお会いできることを願っておりますが、何卒ご理解・ご了承を承宜しく願います。